放課後等デイサービス 夢門塾　自己評価表

記入日: 2020 年 12 月 28 日	
事業所名: 夢門塾ゆうゆう中寺	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員と指導訓練室のスペースは適切である	2	3	1	人数によっては狭いと感じることがある。そのため、1階、2階、外など事業所の環境を上手く使って分散をはかった。ただ、カームダウンの部屋がないので事務所を利用するなどしている。
	②	職員の配置は適切である	2	3	1	職員の希望休や児童数によって違いがあるが、正規職員の確保が困難な時期があった。学校へのお迎え時間が重なると職員配置が難しいことがある。事業所内で職員配置がスムーズにできるよう、所在確認磁石を活用したり職員間で声かけをおこなった。
	③	衛生面の管理が行き届いている	4	1	1	排泄失敗などの衣類を洗う場所がない。小型洗濯機を買ったが脱水ができなく活用できていない。今年度はコロナ対策で消毒は職員全員が意識をもってできた。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定を振り返り）に、広く職員が参画している	1	3	2	管理者を中心に環境整備をおこなったが、職員全員に周知されていなかったので今後は全体で共有できるようコミュニケーションをとっていく。
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者様の意見を把握し、業務改善につなげている	6			保護者向け評価表は1回だが、必要に応じてコドモンを活用しアンケート調査をし改善につなげている。また、保護者様の意見にはできる限り早急に対応している。
	⑥	自己評価の結果を公開している	6			決められた時期に行い、職員も真摯に回答している。
	⑦	職員の資質向上のため、会議・研修の機会を確保している	3	3		コロナ禍で外部での研修が減り参加できにくい時期であったが、できる限りの機会を確保した。今後はさらにオンラインも活用していきたい。
適切な支援の提供	⑧	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を立てている	6			ご利用当初の話しや成長してきた点なども含め職員や保護者様に聞き取りをし、よりよい個別支援計画の作成につとめている。
	⑨	活動の計画をチームで行っている	2	2	2	職員不足で管理者・児発管中心で計画を立ててきたが、前もって話し合いチームで行っていきたい。
	⑩	活動の計画が固定化しないよう工夫している	5	1		子どもたちの表情や意見を汲み取りながら計画を立てている。反省点は職員で話し合い、次回への改善につなげている。
	⑪	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め、細やかに設定し、支援している	5	1		緊急事態宣言による休校時は特に職員間で意識統一を図り支援をおこなった。
	⑫	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、活動を計画している	5	1		1階・2階・屋外と場所を分けたり、個別でスケジュール提示をするなど個々に合わせた活動を取り入れた。
	⑬	支援開始前に、職員間で打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	3		送迎で職員全員が集まって打ち合わせをする機会が持てなかったが、日直や管理者・児発管がその都度声かけをおこなった。また、他の職員もコミュニケーションをとるように心がけた。
	⑭	日々の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1		その日にケース記録を記入し、改善点は管理者・児発管を中心にすぐに職員全員で周知できるようにしている。
	⑮	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	6			児発管を中心に行った。また、他の職員も送迎時などで保護者様からの要望や意見があった際は必ず管理者・児発管に報告をおこなった。
	⑯	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	3	3		ガイドラインの総則の基本活動の理解ができていないのでそこからおこなっていく。

関係機関、保護者様との連携	⑰	学校との情報共有（年間計画・行事予定等予定の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行えている	5	1		下校時間の変更やお迎えが複数校重なった場合は保護者様と学校へ連絡をし対応をした。職員が全員安全を意識してきたので児童同乗時の事故はなかった。
	⑱	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との情報共有と相互理解に努めている	5	1		児童発達支援センターの引継ぎ会には必ず参加している。また、サポートブックを活用し情報共有をおこなっている。それでも不十分な時は相談員さんと連携しケース会などおこなっている。
	⑲	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している	5	1		相談員さんとの連携で対応している。それでも不十分な時はケース会で対応している。
	⑳	児童発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3		今年度より児童発達支援事業所・放課後デイの連絡協議会を立ち上げ連携をおこなっている。今後は管理者だけでなく他の職員にも情報共有をしていく。
	㉑	日常的に子どもの状況を保護者様と連携し、発達状況や課題について共通理解を受けている	6			送迎時に少しでも保護者様と話をするようにしている。その際は明るい表情で接することをこころがけ、気になる内容は管理者・児発管に報告している。
保護者様への説明責任等	㉒	運営規定、支援の内容、利用者負担等に付いて丁寧な説明を行っている	4	2		詳しい内容は管理者・児発管に対応をお願いしている。保護者様も気になること、不安なことは管理者に直接話ができる環境になっている。
	㉓	保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言を行っている	5	1		送迎時にお話しをしたり、必要時は事業所で話しをするなどの対応をおこなった。保護者様が気軽に話ができるように相談窓口を明確にしている。
	㉔	保護者会等を開催し、保護者同士の連携を支援している		3	3	コロナ禍で開催が難しかったので、落ち着いたら実施したい（悩み別・年齢別など保護者様の要望にあった開催の仕方）
	㉕	子どもや保護者様からの苦情について、対応体制を整備、周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	1		苦情があった際は必ずその日に対応をした。また、苦情報告書を記入し職員全員に配布、同じことを起こさないように徹底をおこなった。
	㉖	定期的に会報等発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信している	5	1		コドモンを利用し発信をしたが、まだまだ不十分だった。保護者様の要望も伺いながらよりよい発信をおこなっていきたい。
	㉗	個人情報に十分注意している	6			十分注意をした。外部の方の出入りがある際は児童の名前は隠すなどの対応もした。
	㉘	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			子どもへの対応は絵カードの使用やご本人の表情から汲み取るようにし、保護者様への対応は必要時には相談員さんと連携しおこなっている。
	㉙	地域の行事に参加したり、事業所に地域住民を招待する等し、地域に開かれた事業運営を行っている		3	3	コロナ禍で地域の行事も減り参加が難しかったので落ち着いたら実施したい。
非常時などの対応	㉚	緊急対応、防犯、感染症マニュアルを策定し、周知している	5	1		緊急対応、防犯にたいしては周知できているが、感染症（新型コロナウイルス）については不十分なため、今後周知していきたい。
	㉛	非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っている	4	1	1	曜日や状況を変えて毎月計画をしていたが、できないこともあったので今後はできるだけ計画通りに実施したい。
	㉜	虐待防止のため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	3		研修会の参加はコロナ禍で限られたものになったが、毎日の支援の中で疑問に感じることはすぐに話し合いをおこなった。
	㉝	いかなる場合も身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者様に事前に十分説明し、了承を得た上で支援計画に記載している	5	1		一職員の判断では行わないことを徹底している。
	㉞	保護者様に記入いただいた与薬表をもとに、子どもへの投与を行い、チェックを行っている	6			与薬確認表に沿って対応した。1人の職員が対応せず、必ず2人以上の職員でチェックをおこなった。
	㉟	ヒヤリハットを綴り、事業所内で共有している	6			ヒヤリハットはその日のうちに記入し、職員全員に周知をおこなった。職員全員が同じことを起こさないための大事なことという認識をもっている。